

〇ここで示したものは、参考例の一つである。学習指導要領等の趣旨を踏まえ、学校としての形式を定めることが必要である。

令和 年 月 日 () 第 校時
第 学年 組 指導者 〇〇 〇〇

1 単元名 (小単元名、または題材名)

〇国語科は「単元名」、「教材名」を併記する場合もあり、「単元名」は、言語活動が分かるように記載できるとよい。音楽、図画工作等は「題材名」とする場合が多い。

2 単元の目標 (小単元の目標、または題材の目標)

- (1) ~することができる。(知識及び技能)
- (2) ~することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) ~しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

①単元の目標を評価の観点別に示したり、全ての評価の観点を含んだ文章で(外国語科等)示したりする。
②教科等により、目標の文末表現が異なっているため、国立教育政策研究所や県教委の資料等を参考にする。
③「外国語科」の場合は、各学校で作成している「CAN・DOリスト」の形での「学習到達目標」との関連を明記する。一つの単元で一つ、場合によっては二つ程度示す。

3 単元の評価規準 (題材の評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〇文末を「~している。」として作成する。「技能」については、「~する技能を身に付けている」状況を「~できる。」として示す教科もある。		〇文末を「~しようとしている。」として作成する。

4 単元について (小単元または題材について)

〇教科の特性を踏まえて、教材の系統性や他教科との関連を(1)、(2)、(3)のいずれかに示すことも考えられる。

(1) 教材観

①学習指導要領の内容を踏まえ、本単元が、学習指導要領の目標及び内容のうち、どの目標及び内容を受けて構成しているのかを記述する。そして本単元で押さえるべき指導事項について学習内容・学習活動を明らかにする。
②本教材がどんな価値や本質をもった教材であるかを把握して記述する。

(2) 児童 (生徒) の実態

〇単元の指導に直結しない実態(「明るい学級」「算数が好きな子が多い」など)は記述せずに、下記①~③のとおり、本単元を進めていく前提としての実態を分析的に記述する。したがって、アンケート調査をする際は「学級の状態」や「教科の好き嫌い」といった教科に対する情意面などではなく、単元の指導に関わる内容を問うことが望まれる。

①単元に関わる児童 (生徒) の実態を調査し、その結果を分析して記述する。
②児童 (生徒) の実態は、「学習の定着度」「学習スタイル」「興味・関心」「学習スピード」「生活経験」など複数の観点から把握することや、学校課題 (研究主題) に関わる視点から把握することなどが考えられる。
③実態調査の分析・考察については、成果や課題等を記述し、「(3)指導観」における単元の目標を達成するための指導・手立てや、個を生かす指導につなげる。

(3) 指導観

①「2 単元の目標」や「(1)教材観」、「(2)児童 (生徒) の実態」を踏まえ、目標を達成するための指導・手立て等について記述する。
②基礎的・基本的な知識及び技能の習得と、それらを活用して思考力、判断力、表現力等を育成することを意識した指導を具体的に記述することも考えられる。
③目標を達成するために効果的な言語活動を示したり、教材・教具、資料、活動形態、個を生かす支援など、単元において指導に生かせる手立てや工夫等について記述したりする。
④当該単元において身に付けさせたい力を明確にし、その指導事項のために最適な言語活動はどのようなものであるかを考える。そして教科のねらいの達成のために、単元全体を見通して、適切などころにその言語活動を位置付けるようにする。

5 人権教育との関連

○単元の目標、学習内容と本校における人権教育の「育てたい資質・能力等」（知性・判断力・感受性・技能・実践力）との関わりについて記述する。

6 学校課題との関連（研究学校等においては、研究主題との関連）

- ①学校課題（研究主題）との関連がある場合には、学校課題（研究主題）に迫るための授業の組立や指導の重点などを単元（小単元、又は題材）レベルで記述する。その際、研究の内容に即して記述することが大切である。
- ②教科ごとの課題（研究テーマ）がある場合は、それぞれの課題との関連で記述することも考えられる。

7 単元の指導と評価の計画（○時間扱い）

- ①年間指導計画の下に、単元の目標（ねらい）を踏まえて単元全体を見通し、指導順序と時間数を明記するとともに、本時の位置付けを明確にする。目標（ねらい）、主な学習活動、指導上の留意点（又は教師の支援）、評価規準等について記述する。特に、本時の展開との整合性を図るようにする。
- ②単位時間ごとの目標（ねらい）、主な学習活動、指導上の留意点（又は教師の支援）、評価規準等について記述する。

【単元の指導と評価の計画（○時間扱い）の例】

○学習内容と学習活動を別枠で示したり、□で囲んだりして明確に分けて記述することも考えられる。

○「教師の指導及び手立て」とし、この欄に「努力を要する状況と判断された児童（生徒）」への指導の手立てを記述することも考えられる。

○学習活動に即した評価規準
○ここに示した評価規準をそのまま「(6)展開」の評価規準として記述する。

○ここに示した手立てについては、「(6)展開」の「評価（評価方法）」や「指導上の留意点」の欄に記述する。

	目標 (ねらい)	主な学習内容・ 学習活動	指導上の留意点	評価の観点			評価規準 (評価方法)	努力を要する状況と判断される児童（生徒）への指導の手立て
				知・ 技	思・ 判	態 度		
1 本 時	○本時の目標（ねらい）を記述する。	○本時の主な学習内容・学習活動を記述する。	○児童（生徒）の活動を促進させるための留意点等を記述する。	①			○評価規準を記述する。 ○評価方法も（ ）内に記述する。	○予想される状況とその手立てを簡潔に記述する
2								
3								
4								

○「8 本時の指導（6）展開」（本時の展開）は、ここに示した指導と評価の計画をより詳細に、具体的に示すことになる。
○本時は、太枠で示すと分かりやすい。

○単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価する。
○「記録に残す評価」については、各観点について評価の場面を精選し、どこで評価するかわかるように記述する。

○記：「記録に残す評価」の記載例

○評価規準から、より高まり深まった状況を実現していると判断される児童（生徒）の姿の例を「十分満足できる状況」として記述する場合もある。（キーワードによる記述もある。）

- 国立教育政策研究所の参考資料に、様々な形式が示されているので、参考にする。
- A4判を横にして使い、別紙として示すことも考えられる。
- 1 単位時間の中の各項目の横の整合性及び指導案全体としての「2 単元の目標」から「7 本時の指導」までの縦の整合性を図るようにする。

8 本時の指導

(1) 題材名、または教材名

○「7 単元の指導と評価の計画」との整合を図る。

(2) 目標（またはねらい）

○本時の目標（ねらい）をわかりやすく記述する。（ ）で評価の観点を記述する方法も考えられる。児童(生徒)に提示するめあてや学習課題及び本時の評価規準との整合性を図る。

(3) 学校課題（または研究主題）に関わる授業の視点

○本時において、学校課題（研究主題）との関連がある場合には、学校課題（研究主題）にどのように迫るのかを記述する。その際、課題説明の手立てや研究の内容に即して記述することが大切である。

(4) 人権教育の視点

○本時の目標（ねらい）、学習内容や指導方法と、「育てたい資質・能力等」との関わりを記述する。ここで視点が、展開の「人権教育上の配慮」において具体的な記述となる。

(5) 生かしたい児童（生徒）

○各教科等で「人権に配慮した授業」を実践するためには、「人権教育との関連、人権教育の視点、人権教育上の配慮、生かしたい児童（生徒）」を適切に位置付けることが必要である。集団の中で疎外されたり、不適応を起こしたりしがちな児童生徒を、「配慮を要する児童(生徒)」と捉え、その実態を踏まえて意図的・計画的に適切な支援をしていくことや児童生徒のよさを捉え、指導に生かし伸ばしていくという積極的な観点から捉えることが求められる。

○「生かしたい児童（生徒）」の設定の仕方の例

- ①「人権教育の視点」として、本時の目標（ねらい）や学習内容、指導方法（学習形態など）が「育てたい資質・能力等」とどのように関連しているかについて捉える。
- ②「人権教育上の配慮」として「育てたい資質・能力等」を身に付けるための支援や配慮事項、学習指導における基底的指導にかかわる配慮事項などを、学習内容、指導方法の両面について具体的に押さえる。
- ③本時の中で配慮したい児童(生徒)を「生かしたい児童（生徒）」として捉え、意図的に指導や支援を行う。

人権教育に関する指導案への記載については、「芳賀の教育 HP 版 Q&A 集 人権教育」を参考にする。

H19「Q 6 各教科等の授業において『生かしたい児童生徒』を設定する際、どのような点に留意すればよいか。」

H25「Q 6 人権教育を学習指導案上に位置付ける際の留意点はどのようなことか？」

(6) 展開（次頁参照）

(7) その他

○学校課題や研究内容及び教科等の特性などを踏まえ、必要に応じて、板書計画、発問計画、場の設定、ワークシート（別紙）などの項立てをして、記述することも考えられる。

(6) 展開

【展開の例】

○教科の特質が見えるようにする。(例えば、算数ならば必要な数値、式、図表、グラフなど含めて記述する。)

○形式については、A4横版で作成することも考えられる。

○TTの場合は、この欄をT1とT2に縦に区切り、役割を明確にして記述することも考えられる。なお、T1やT2以外の授業への参観者は 授業参観のマナーとして、児童(生徒)に指導・助言をしたり、ヒントを与えたりしないようにすることが望まれる。

○学習活動とは、この学習内容を具体的に理解するための活動である。
○学習活動(太字)は、児童(生徒)の立場で記述する。

○指導上の留意点(太字)は教師の立場で記述する。

○学校課題との関係性も大権教育上の配慮

学習活動	時間	形態	指導上の留意点等	資料	評価(評価方法)
○本時のめあて、学習課題、学習活動、指導上の留意点、評価(評価規準)等の横の整合性を図る。					
1 本時のめあてを設定する 小学校体育科保健領域の学習例	導入	一斉	・既習事項を児童と確認しながら児童の発言を生かして本時のめあてを設定する。		
<p>【学習課題】 どうすればけがを防止することができるだろう。</p> <p>【めあて】 ○○について○○ことを○○しよう。</p> <p>発問1 ○○○～でしょうか。</p> <p>(予想される反応) ・○○○○○ ・○○○○○ ・○○○○○</p> <p>説明1 ・○○○○○</p>			<p>○本時の「目標(ねらい)」を児童(生徒)に提示する際は、「めあて」として提示する。教師から一方的に提示せず、児童(生徒)とのやり取りを大切にして設定する。</p> <p>○一時間の授業(学習のまとめりごと)のめあてを、 ①発達の段階に応じて分かりやすい言葉で設定する。 ②板書や掲示をするなど、はっきりと示す。 ③教科の特質に応じて、「何が」、「どのように」、「どのくらい」できればよいのかが分かるようにできるだけ具体的に設定する。 ④示す方法や示すタイミングについても学習内容や学習活動などに応じて工夫する。その際、体験と関連付けたり、既習事項を想起させたりする。</p>		
2 ○○について予想し、自分の考えを付箋紙に書き出して説明する。	30	グループ	・ブレインストーミングにより○○に思いをめぐらせ、自分の考えを付箋紙に書き出す。	付箋紙 ・付箋紙 ・模造紙 ・マジック ・ノート	<p>○ここには以下のような内容について、授業の流れをイメージしながらできるだけ詳しく記述する。 ・授業の留意点、指示、説明、支援・指導の内容、及び「努力を要する状況と判断される児童(生徒)」への手立て ・学習内容を理解するための学習活動についての、補足説明、教師側の留意点、つまづいている児童(生徒)へ講じる具体的な手立て、発展的学習の用意、指導上の留意点 ・教師の発問、指示、説明、予想される反応、それに対する対応・手立て(発問、指示、説明、予想される反応は、学習活動の欄に記述してもよい。)等</p> <p>○通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童(生徒)への配慮事項を記述する場合は、この欄に記入する。</p> <p>○本時の「目標(ねらい)」、「めあて」と「評価規準」との間に整合性を図る。</p> <p>○「7単元の指導と評価の計画」の評価規準とも整合性を図る。</p>
発問2・指示1 ○○は、～ですか。ブレインストーミングをして考え			○必要に応じて、本時の目標(ねらい)を達成するために適切な言語活動を位置付け、思考力、判断力、表現力等を育む。		<p>【評価規準】【思・判・表】</p> <p>・○○○～○○○。(観察・ノート)</p> <p>〔十分満足できる〕</p> <p>・○○○～○○○。(観察・ノート)</p> <p>〔努力を要する状況と判断される児童(生徒)の姿の例を記載することも考えられる。〕</p>
○教科の特性や単元によっては、毎時間 本時のまとめを設定する必要はない。 ○「まとめ」と「振り返り」は別の活動である点に注意する。			・○○○の場合は、○○○するよう、○○○したり、○○○したり、○○○で考えるなどのヒントを与える。(手立て) ○○○の場合は、○○○するような指示		○「十分満足できる状況」としてより高まり深まった状況を実現しているかと判断される児童(生徒)の姿の例を記載することも考えられる。
4 本時のまとめをする	5	一斉	○教師による評価、自己評価、相互評価など。 ○本時の「目標(ねらい)」や「めあて」と照らし合わせて、教師による評価、自己評価、相互評価等で振り返りをさせる。記号化による簡易的な評価に偏ることなく、文章による記述も取り入れ、目標(ねらい)、めあての達成具合を更に細かに見取るなど方法を工夫し、次の指導に生かせるものにする。		○「努力を要する状況と判断される児童(生徒)」への指導の手立てについては、「指導上の留意点」の欄に示すことも考えられる。
5 本時の学習を振り返る。	3	個人	・ノートに自己評価、相互評価をし、発言を振り返る。 ・教師の話を聞く。		
			○本時のめあてに応じた振り返りを行わせる。 ○教科によっては評価問題を解かせることも考えられる。		

【参考資料】

- ・「新学習指導要領に基づく指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」(小・中学校編) R02.7、R02.12 県教委
- ・「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(各教科等) R02.3 国立教育政策研究所

